

第43回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 議事録

日 時 2023年12月9日(土) 17:00~18:00
場 所 海峡メッセ下関1階 第1会場
出席者数 1,707名(会場出席114名、委任状1,593名)
議 長 田中マキ子
配布資料 第43回学会総会議事次第

I. 開 会

現正会員数 10,337名中、総会に出席した正会員数は 97名、有効委任状提出者 1,593名、合計 1,690名であり、日本看護科学学会定款第45条に定められた要件を満たしていることを確認したのち、第43回公益社団法人日本看護科学学会総会が開会された。司会は西村ユミ副理事長が、書記は山本麻起子氏(熊本大学)が行った。

II. 理事長挨拶

吉沢豊予子理事長より、以下の挨拶があった。
第43回学術集会が対面で行われ、多くの会員に参加いただいたことに感謝申し上げる。新型コロナウイルス感染症が今年5月から5類に分類され、非日常であった生活が、日常の生活に戻り、そして、コロナ禍でニューノーマルと呼ばれていたことも今では日常化している段階にある。世界では、長引くロシアとウクライナの戦争、ハマスによるイスラエルへの攻撃から始まった紛争、テロ、多くの民間の犠牲者を出しながらも先が見えない暗闇に入り込んでしまっている。12月にはフィリピンで大地震があり、日本にも津波が押し寄せてきた。地球世界は変動性、不確実性、曖昧性という予測困難な時代である。私たちがこの世の中を生き抜いていく今、個人がどんな力を備えなければならないのか。そして、看護科学がどんな働きをこの世界にもたらすことができるのか、看護の力で世界を良い方向に導くとの思いでいっぱいである。

今期の理事会が発足してから半年が過ぎた。総会において活動報告をさせていただきながら、これまでJANSが取り組んできた事業は継続し、さらにブラッシュアップさせながら進めていく所存である。また、今期から来期に行いたいと考えている新規事業は時間をかけて、皆様にお諮りしたいと考えている。現在、田中マキ子学術集会会長のもと、ここ下関で第43回学術集会が開催されている。素晴らしい企画が目白押しであり、あと一日、有意義な学術集会になることを楽しみにしている。

III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第44条に従い、議長に第43回学術集会会長の田中マキ子氏が指名された。また議事録署名人については、議長から紺家千津子氏(石川県立看護大学)、中村幸代氏(横浜市立大学)の2名が指名され、承認された。

IV. 報告事項

1. 理事長のビジョンと運営方針

吉沢豊予子理事長より、会場に投影されたスライドに示された内容を基に以下の説明があった。

1) 理事会コミットメントについて

- (1) 知の創造活動の継続
- (2) 社会で活用される知の具現化と社会実装の実現
- (3) 上記(1)・(2)の好循環
- (4) これらを遂行する若手研究者の育成と研究環境の整備

2) 理事会コミットメントと活動中の委員会について

- (1) 知の創造活動の継続
 - ・和文誌・英文誌各編集委員会、研究・学術推進委員会、看護倫理検討委員会、COVID-19看護研究等対策委員会、研究助成選考委員会、国際活動推進委員会
- (2) 知の具現化から社会実装へ
 - ・看護ケア開発・標準化委員会、看護学学術用語検討委員会、災害看護支援委員会、社会貢献委員会、広報委員会
- (3) 若手研究者等育成・研究環境整備
 - ・若手研究者活動推進委員会、若手研究者助成選考委員会、表彰論文選考委員会
- (4) 後方支援
 - ・利益相反委員会、研究倫理審査委員会、会則等委員会、総務委員会、選挙管理委員会、JANS事務局

3) 今後の方向性について

- (1) 知の具現化の強化
 - ・オープンサイエンスの理念に基づき、看護ケア知の共有化のプラットフォームの開発と促進
- (2) 日本・世界の人々のウェルビーイングへの貢献
 - ・JANS設立50周年に向けて：看護研究者と一般市民参加型（シチズンサイエンス）による看護学の再構築

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

2. 委員会のミッションと2024年度事業計画について

各委員会のミッションと2024年度事業計画がスライドで表示され、各委員会は会務分掌に基づき、継続して下記の活動を行っていく旨、田口敦子総務担当理事より説明があった。

- 和文誌編集委員会：日本看護科学会誌の編集・発行
(投稿規程、ガイドライン等の必要な場合の見直し、迅速査読制度と著者要件変更の評価、編集委員、査読委員の活動支援と投稿数の向上等)
- 英文誌編集委員会：Japan Journal of Nursing Scienceの編集・発行
(プロモーション活動の実施、インパクトファクターの向上、迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムの整備等)
- 表彰論文選考委員会：表彰論文と学術集会演題の選考、公開、表彰を実施
(表彰機会の増加(論文と演題)による論文投稿の向上等)

- 研究・学術推進委員会：会員の看護学に関する各種研究の推進を支援（大型研究費獲得のための支援の継続、セミナー開催、オンラインジャーナルクラブの定期開催等）
- 看護ケア開発・標準化委員会：看護技術を開発標準化するモデルを構築（ガイドライン作成グループによる草案やレビュー論文の公開、看護ケアエビデンスの蓄積と標準化、JANAや他学会との連携等）
- 若手研究者活動推進委員会：未来の看護学を創造・想像する土台を構築（若手研究者ネットワークの活性化と連携の強化、セミナーの開催、他学会との連携等）
- 国際活動推進委員会：看護学の国際活動の推進（国際学会での研究発表増加への支援と若手研究者助成との連携、海外学術団体との交流、異文化看護データベースの更新等）
- 看護学学術用語検討委員会：看護が扱う専門用語の概念的統一を図る（電子システムJANSpediaによる看護用語公開、新たな用語の追加等）
- 社会貢献委員会：看護学の研究活動を通して人々の健康と福祉に貢献（学術集会での市民公開講座開催、次世代育成に向けた企画としてホームページの充実と中高生との交流会を実施等）
- 広報委員会：看護学を広く発信し人々の健康と保健・医療・福祉に貢献（ホームページの拡充とSNS等の利用による新たな広報活動の充実等）
- 看護倫理検討委員会：倫理的課題を整理し研究者モラルの向上を図る（看護倫理の遵守、研究活動の不正防止に関する啓発活動の実施）
- 利益相反委員会：役員、委員、投稿者や発表者を対象にCOIを実施し評価を実施（指針、細則、COI申告書の見直し、新たなシステムの導入等）
- 研究倫理審査委員会：看護研究の倫理的配慮がなされているか審査する（申請による審査の実施、利益相反委員会との連携）
- 災害看護支援委員会：看護系学会との連携により災害時活動内容を検討（研究課題に関する情報収集、支援に関する調査と論文公開等）
- 若手研究者助成選考委員会：若手研究者への助成を実施（若手研究者の国際学術集会への出席や海外留学の支援）
- 会則等委員会：定款や規程類、申し合わせ事項等についての管理・運営を実施（定款の改正の必要性や規則等見直しの必要性を検討）
- COVID-19看護研究等対策委員会：COVID-19状況下での研究活動の実践を検討（第2回調査データの分析・論文執筆プロジェクトの継続、第1回、第2回の調査データの2次利用（データ寄託）の促進）
- 総務委員会：会員管理と事務所管理を円滑に行う
- 研究助成選考委員会：会員の研究活動を経済面から支援（2023年度から実施）
 - 1) 正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
 - 2) 正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

3. 2024年度予算について

スライドに示された収支予算書について、会計担当の萱間真美理事より説明があった。

会費収入や公益目的事業収入、収益事業収入等を含めた事業活動収入合計は164,124,000円であり、公益目的事業支出や管理費支出を含めた事業活動支出合計は203,097,000円となっており、この収入と支出の差異（事業活動収支差額）は△38,973,000円である。

なお、JANSは公益社団法人として、公益目的事業を大きく展開することを義務付けられており、若手研究者助成資金と研究助成資金にそれぞれ3,000万円の積み立てをして助成金に充てている。併せて内部留保の金額も公益社団法人として制限があることから、収支がマイナスの予算となっているが、学会は健全に運営されており、昨日の社員総会でも承認されている。

4. 名誉会員の就任報告

総務担当の田口敦子理事より、今村節子氏と小山眞理子氏、島内節氏の3名の、名誉会員就任が報告された。

5. 第46回日本看護科学学会学術集会会長の就任報告

総務担当の田口敦子理事より、2026年開催の第46回日本看護科学学会学術集会会長として、西村ユミ氏（東京都立大学）が就任された旨、報告があった。また、西村ユミ氏より挨拶があった。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

V. 審議事項 理事会への意見

議長は意見を促したところ、以下の質疑応答があった。

日本看護科学学会として取り組んでいただく研究について、これから NP が看護職として、新しい国家資格になるとよいと思っている。法制度化していくためには、エビデンスが必要であり、学術の力が重要である。日本看護科学学会として、取り組んでいただきたいと思っているので、お願いを申し上げる。

（村嶋会員）

今後の学会のビジョンにある知の具現化、社会実装に持っていくためには、どんな人々が、どんな医療職がどのように関わることによって、専門職の力を効果的にひろげていけるのか、エビデンスを深めていくことが必要である。検討をして進めていきたいと思っている。（吉沢理事長）

日本看護科学学会として、看護の未来を見据えた上での課題を見出し、どう取り組んでいくか、方向性を明確にする必要がある。社会格差、健康格差など、社会の課題に対して学術的にどう取り組んでいくのか、学生、若手の研究者を育て、看護学の学術の発展をより進めることを期待する。（南会員）

将来を見据えた看護の未来について、人を育てていくことのエビデンスも大事であり、看護が何をすべきか、将来像についても取り組んでいきたいと思っている。

（吉沢理事長）

その他、意見や質問はなく、議事は終了した。

VI. 第21回学術論文優秀賞・奨励賞

表彰論文選考委員長の有森直子理事が学術論文優秀賞2名、学術論文奨励賞1名を紹介した。3名の受賞者より受賞の挨拶があった。受賞論文は以下となる。

【優秀賞】

- ・丸山菜穂子氏他（国立成育医療研究センター）

「Effects of e-learning on the support of midwives and nurses to perinatal women suffering from intimate partner violence: A randomized controlled trial

- ・藤本浩一氏他（兵庫医科大学）

「Associations between psychiatric home-visit nursing staff's exposure to violence and conditions of visit to community-living individuals with mental illness」

【奨励賞】

- ・麻生咲子氏他（静岡県立静岡がんセンター）

「Association between temporary discharge from the inpatient palliative care unit and achievement of good death in end-of-life cancer patients: A nationwide survey of bereaved family members」

VII. 第44回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

第44回学術集会会長前田ひとみ氏より、以下の挨拶とプロモーションビデオ放映があった。

第44回学術集会は、2024年12月7-8日に熊本城ホール、市民会館で、対面と一部オンデマンドでの開催を予定している。COVID-19は、5類感染症になり、感染者数は減少しているように見えるが、長期後遺症に悩んでいる方がいる。また人と人との対面での接触が制限されたために、インフルエンザや他の感染症に対する免疫が落ち、様々な感染症の罹患率が増えている。さらに、温暖化、自然災害、紛争が起こり、社会格差、健康格差、教育格差が生じている。看護科学に何ができるのか、健康ニーズに基づいたケアプログラム、予防教育プログラムの構築、適切で公正な医療にアクセスできない方に対し、いかにアクセスできるか、健康格差の縮小を実現させることが、看護の大きな役割であると思っている。これらを踏まえ、学術集会のテーマを「格差社会への看護科学の挑戦—想像を超えた未来を創造する—」にした。開催場所である熊本城ホールは、熊本地震後の復興事業として建設された。現在、松本智晴JANS44事務局長と企画委員を中心に準備に取り組んでいる。社会格差の解消に向けた取り組みは、一時的、対処的な取り組みではなく、長期的、継続的に取り組む必要がある。皆様と想像を超えた未来の創造について看護に何ができるのか、探求していきたい。多くの皆様のご参加をお待ちしている。

VIII. 閉 会

司会の西村ユミ副理事長より、最終的な出席者正会員数は委任状を含めて合計1,707名となり、学会総会が成立していることがあらためて報告された。以上をもって、第43回公益社団法人日本看護科学学会総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め
記名押印する。

2024年 3月 11日

議 長 田中 マキ子 印

議事録署名人 紺家 千津子 印

議事録署名人 中村 幸代 印

第43回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 優秀論文表彰（優秀賞・奨励賞）議事次第

日 時 2023年12月9日（土）17:00～18:00
場 所 海峡メッセ下関1階 第1会場

【議事次第】

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 議長指名および議事録署名人の承認

IV. 報告事項

1. 理事長のビジョンと運営方針
2. 委員会のミッションと2024年度事業計画について
3. 2024年度予算について
4. 名誉会員の就任報告
5. 第46回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

V. 審議事項 理事会への意見

VI. 表彰

VII. 第44回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

VIII. 閉 会